

第 65 回日本農村生活研究大会 in 東京

プ ロ グ ラ ム

期 日：平成 29 年 10 月 14 日（土） 12:45～19:30

15 日（日） 9:30～16:00

会 場：東京農業大学世田谷キャンパス：東京都世田谷区桜丘 1-1-1

★ 公開シンポジウム 14 日（土） 14:30～17:30

会場：横井講堂（農大アカデミアセンターB1F）
（公開定員 250 名）

『日本における食文化と地域社会—酒・人・地域のかかわりを活かす—』

コーディネーター：原 珠里 氏（東京農業大学）
報 告 者： 友田 清彦 氏（東京農業大学）
小野 裕美 氏（廣田酒造 南部杜氏）
関谷 健 氏（関谷醸造株式会社 代表取締役）

★ラウンドテーブルA 15 日（日）13:00～15:20 会場：1号館4階412教室

「コメ文化の新たな広がりに向けた町内異業種連携」

コーディネーター：大久保 研治 氏（東京農業大学）
話 題 提 供 者： 猪俣 優樹 氏（(有)猪俣徳一商店 代表取締役社長）
コメンテーター： 安江 紘幸 氏（農研機構東北農業研究センター）

★ラウンドテーブルB 15 日（日）13:00～15:20 会場：1号館4階413教室

「発達障害者と共に農村でいのちをつくる・つむぐ・つなぐ」

コーディネーター：杉原 たまえ 氏（東京農業大学）
話 題 提 供 者： 前田 泰一 氏（株式会社 金沢ちはらファーム社長）
コメンテーター： 小坂田 稔 氏（美作大学）

主 催：日 本 農 村 生 活 学 会

後 援：東 京 農 業 大 学

【 第1日 10月14日（土） 】

受付開始 12:00～

(1) 開会式 12:45～13:00 (会場：横井講堂 農大アカデミアセンターB1F)

大会総合司会：吉野 馨子 氏 (東京農業大学)

学会長挨拶：安倍 澄子 会長

大会実行委員長挨拶：杉原 たまえ 委員長

(2) 学会総会 13:00～13:50 会場：横井講堂

(3) 学会賞授与式 13:50～14:10 会場：横井講堂

(4) 公開シンポジウム 14:30～17:30 (会場：横井講堂)

『日本における食文化と地域社会-酒・人・地域のかかわりを活かす-』

コーディネーター：原 珠里 氏 (東京農業大学)

報告者： 友田 清彦 氏 (東京農業大学)

「日本の食文化と酒」

小野 裕美 氏 (廣田酒造 南部杜氏)

「女性南部杜氏の歩みと地域の恵み」

関谷 健 氏 (関谷醸造株式会社 代表取締役)

「関谷醸造の取り組み 米作りから食卓まで

- from Rice field to the Table -」

総合討論 16:30～17:30

農業をめぐる環境変化は、食生活、また伝統的な食の文化にも大きな変化を与えている。農業の担い手の減少が長く指摘される一方、平成25年12月に「和食；日本人の伝統的な食文化」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことからわかるように、日本の伝統的な食文化の価値を見直そうとする動きが活発化している。本大会は食と農を関連付けて考えることの重要性に鑑み、多様な異業種間の連携により、食と農の関係が伝統をふまえて新たな展開に踏み出す可能性についての議論の場とすることを目的としている。特に、シンポジウムでは「日本における食文化と地域社会-酒・人・地域のかかわりを活かす-」をテーマに、日本の食文化において重要な位置を占めてきた日本酒の生産に焦点をあてる。開催校の東京農業大学は醸造学科をもち、日本全国の蔵元の後継者を多く育ててきた実績をもつことから、多様な立場の知見を交換し合うことにより、食文化の中の日本酒の文化を地域社会がいかに支えていけるのか複眼的な展望を得る機会としたい。またラウンドテーブルで取り上げる、農福連携の事例や日本酒の新商品開発などの事例は、異業種連携の可能性と課題についての理解を深めることとなろう。これらを通じて、新しい時代の食と農の連携の可能性に接近を試みる。

(5) 情報交流会 18:00～19:30 会場：学食 すずしろ

【 第2日 10月15日(日) 】

(1) 一般報告 (9:30~10:30) (10:40~11:40)

★ A会場：1号館4階411教室

1人20分(報告15分 質疑応答5分を目安に)

A-1(9:30~10:30) 座長:澤野 久美(農研機構 中央農業研究センター)

① 農村女性の自給活動が農業政策に与えた影響

—栃木県の自給運動と女性起業を事例として—

宇都宮大学大学院 ○一ノ瀬 佑理

宇都宮大学農学部 西山 未真

② 農家レストランの社会的意義への考察 —宮城県の事例より—

一般社団法人 JA共済総合研究所 大友 和佳子

③ 地域・大学による特産品開発の評価

東京農業大学 望月 洋孝

A-2(10:40~11:40) 座長:西山 未真(宇都宮大学)

① 地域伝統食の掘り起こし・普及・定着 —千葉県北総地域の性学餅の事例—

千葉農村地域文化研究所 飯塚 里恵子

② 加工グループ活動を通じた農家女性の主体形成の特質

和歌山大学 食農総合研究所 ○植田 淳子

和歌山大学 食農総合研究所 辻 知良

和歌山大学 観光学部 藤田 武弘

③ 中食の日常利用と非日常利用の関連性に関する研究 —消費者属性に着目して—

東京農業大学大学院 ○玉木 志穂

東京農業大学 大浦 裕二

農研機構 山本 淳子

農林水産政策研究所 八木 浩平

★ B会場：1号館4階412教室

1人20分(報告15分 質疑応答5分を目安に)

B-1(9:30~10:30) 座長:唐崎 卓也(農研機構 農村研究工学部門)

① 女性地域おこし協力隊の成功要因について

文京学院大学 甲斐田 きよみ

② 新規居住者の地域人材としての「二面性」—長野県飯田市の地域住民組織を事例として—

農林水産省 農林水産政策研究所 佐藤 真弓

③ 農村への段階的移住と移住者による新たな交流について

農林水産省 農林水産政策研究所 平形 和世

B-2(10:40~11:40) 座長:粕谷 美砂子(昭和女子大学)

- ④ 育児期女性の農業就業の可能性と課題に関する一考察
—三重県における農業就労体験の事例より—

三重県農業研究所 飯場 聡子

- ⑤ バイエルンにおける農村家政教育・訓練と女性農業者のキャリア

十文字学園女子大学 大友 由紀子

★ C会場:1号館4階413教室

1人20分(報告15分 質疑応答5分を目安に)

C-1(9:30~10:30) 座長:鈴木(是川) 邦子(山形県置賜総合支庁)

- ① 農業・普及関係職員の退職後の生活及びネットワークに関する一考察

昭和女子大学 ○粕谷 美砂子

元京都府山城北農業改良普及センター 黄瀬 邦子

元京都府中丹西農業改良普及センター 乾 多津子

昭和女子大学名誉教授 天野 寛子

- ② こせがれネットワークから大規模農業法人への流れは起こるか?

—稲作法人と養鶏・採卵法人の事例—

農研機構 中央農業研究センター 飯坂 正弘

- ③ 三陸漁村における他出者の意識について—宮城県雄勝半島〇地区でのアンケート調査より—

東京農業大学 吉野 馨子

C-2(10:40~11:40) 座長:甲斐田 きよみ(文京学院大学)

- ④ 避難指示解除後の福島原発事故被災地における農村女性起業再開に向けた課題

福島大学 岩崎 由美子

- ⑤ Coping Strategies by local people for the natural disaster focusing on the internal cooperation and external assistance: A case from earthquake affected people in Nuwakot District, Nepal

東京農業大学大学院 ○Dipendra Dhakal

東京農業大学 吉野馨子

(3) ラウンドテーブル 13:00~15:20

★ラウンドテーブルA 13:00~15:20 会場：1号館4階412教室

「コメ文化の新たな広がりに向けた町内異業種連携」

コーディネーター：大久保 研治 氏（東京農業大学）
話題提供者：猪俣 優樹氏（(有)猪俣徳一商店 代表取締役社長）
コメンテーター：安江 紘幸氏（農研機構東北農業研究センター）

★ラウンドテーブルB 13:00~15:20 会場：1号館4階413教室

「発達障害者と共に農村でいのちをつくる・つむぐ・つなぐ」

コーディネーター：杉原 たまえ 氏（東京農業大学）
話題提供者：前田 泰一氏（株式会社 金沢ちはらファーム社長）
コメンテーター：小坂田 稔氏（美作大学）

(4) ラウンドテーブル総括・閉会式 (15:30~16:00) 会場：1号館4階431教室

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

参加費等について

○大会参加費（要旨代を含む）	日本農村生活学会会員	4,000円
	非会員	6,000円
	学生会員（含非会員）	2,000円
○情報交流会	会員・非会員	4,000円
	学生会員	2,000円
○報告要旨のみ（当日以降販売）		2,000円

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

<大会参加申し込み方法>

★申し込み方法—FAX

別添のファックス参加申し込みフォームに必要事項を記入し、**10月2日（月）正午**までに FAX 03-5477-2661（東京農業大学実行委員会事務局 国際食農科学科事務室内）へ送信ください。

★大会参加費は大会当日、受付にてお支払い下さい。領収書について宛先等のご指定がある方は、申込書にその旨ご記入下さい。

★なお、当日申し込みによる参加も可能です。

★シンポジウムは公開（無料）としていますが、シンポジウムのみ参加の場合でも、会員の方には通常の会費を頂きます。学会活動ご支援にご理解をよろしくお願い申し上げます。

<大会に関する問い合わせ先>

東京農業大学 2017 東京大会事務局 原珠里
住所 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘1-1-1
TEL（研究室直通）03-5477-2357 Email：j3hara@nodai.ac.jp
FAX（実行委員会事務局 国際食農科学科事務室内）03-5477-2661

<東京農業大学までの交通アクセス等ご案内>

★小田急線経堂駅から徒歩15分。詳細は、下記の地図および大学HPをご覧ください。

★駐車場のご用意ができませんので、公共交通機関のご利用をお願いいたします。

世田谷キャンパスまでの交通機関・所要時間



キャンパスマップ

